

協働事業と市民活動の 推進に向けて

～平成20年度協働事業提案に基づく提言～

平成21年2月

柏市協働事業提案選考委員会

目 次

- 1 今年度の提案概要と選考結果
- 2 選考を終えて（大内田鶴子委員長）
- 3 制度運用上の課題と改善策
- 4 協働の推進と市民活動支援
- 5 まとめ

《巻末資料》

- ・平成 20 年度協働事業提案内容と選考結果一覧
- ・提案団体と事業関係課の意見交換会の概要

■協働事業提案選考委員（◎委員長，○副委員長）

◎ 大内田鶴子	学識経験者（江戸川大学社会学部ライフデザイン学科教授）
○ 渡辺元	学識経験者（(特活) 市民社会創造ファンド運営委員）
松永敏明	公募市民
森下正之	公募市民
比戸壽代	(特活)せっけんの街 理事
鈴木典子	柏子どもの文化連絡会 副会長
石橋良夫	柏市企画部企画調整課 副参事
鬼澤徹雄	柏市市民生活部市民活動推進課 課長

■協働コーディネーター

松清智洋	名戸ヶ谷ビオトープを育てる会 柏市民活動センター マネージャー
山本佳美	(特活)ちばMDエコネット 事務局長 (特活)コミュニティアート・ふなばし 副理事長

1 今年度の提案概要と選考結果

今年度は6件の提案があり、一次選考（書類審査）を行った結果、全て通過基準に到達せず不採択であった。

選考結果については、委員会から提案者へ不採択理由と意見を付記した。協働事業に関する新視点の獲得と、自主活動拡充の参考となれば幸いである。

なお、今年度は調整協議及び2次選考のプロセスに進む提案は無かったが、担当部署との意見交換を希望する団体については、協働コーディネーター同席のもと、テーマや施策についての情報交換を行っている。

提案内容と選考結果及び意見交換会の概要については、巻末別紙のとおりである。提案団体のみならず、これから提案を考える団体、関連部署以外の市職員においても参考としていただきたい。

一次選考会

選考日時 平成20年6月30日（月）午後1時から5時まで

選考会場 柏市役所 分室1第4会議室

出席者 協働事業提案選考委員、協働コーディネーター、事務局（市民活動推進課）

2 選考を終えて(協働事業提案選考委員会委員長 大内 田鶴子)

選考委員会においては、個々の提案について活発な議論を行い、丁寧な評価に努めてきた。選考中に注目した点や感じた点を列挙したい。

(1) 提案に関する準備・情報の不足

事業手法が財政支援や広報協力など行政依存的なものや、提案団体の実行体制が整っていないものが散見された。当制度の目的をしっかりと伝えるときともに、協働パートナーとしての市民活動団体の事業力強化も課題であると感じた。

(2) 日常的な対話の必要性

事前に、対象のニーズや市施策の現状について確認していればよかったと思われるものもあった。まず、日常レベルで団体と行政との接点を増やし、双方で情報交換を行うことから協働がスタートしていくのではないだろうか。

課題に対する認識や手法の違いなどを把握した上で企画することにより、団体の特性を打ち出した、質の高い提案の創出にもつながると考える。

(3) 協働の定義の明確化

自主事業の拡大展開による手法から、もう一步踏み込み「なぜ市と協働するのか」「なぜ協働で課題解決できるのか」その理由とメリットが明確な提案が欲しかったところである。また、協働の形態が個々に違って捉えられており、市が目指す協働の姿が市民に上手く伝わっていないように感じた。課題認識だけでなく協働の定義についても意思疎通の機会が必要であろう。

(4) 協働事例の共有化

市民のまちづくりへの興味・関心を高め、市民公益活動団体と市との協働成果を市民の共有財産としていくために、これまで採択された提案事業の実施状況について、継続的に報告し公表することを望む。

3 制度運用上の課題とプロセスの改善点

協働事業の推進にあたっては、制度自体を『成長・発展するシステム』として位置付け、事例を積み重ねながらより良い仕組みづくりを進めている。

施行当初からこれまでの運用の中で見えてきた、制度上の課題と改善点について提言したい。

No.	課題	改善点
①	協働環境の整備	協働の定義を明確にアピール 市民公益活動団体と行政の相互理解の場の拡充 協働事例の蓄積と公開
②	提案しやすい仕組みづくり	事前の相談・協議の強化 アイデア段階での構想整理と運営体制の確認 積極的な市政情報の公開と提供
③	効果的な選考方法	選考過程の透明性を確保 選考にかかる事務負担の軽減
④	制度周知の徹底	広報手法や回数について検討

4 協働の推進と市民活動支援

選考委員会では、今年度から「柏市民公益活動補助金」の交付団体選定委員を兼務し、それぞれの段階にある団体の実情をうかがってきた。

以下、両制度について、選考や報告から見えてきた所感を述べる。

(1) 協働の土壌づくり

制度導入4年を経て、提案件数が少数で落ち着く傾向にあって、市財政の緊縮状況を鑑みると、より質が高く成熟した提案を求めている側面が浮上してきた。提案件数が少数傾向にあるのは、そもそも協働パートナーとなり得る団体が地域にはそう多くはなく、どちらかと言えば支援の段階に相当する団体が多いものと考えられる。協働の芽が育つための土壌づくりとして、協働推進と活動支援の両輪に取り組まなければならないのが現状であろう。

(2) 協働事業提案制度

当制度は、市民協働のためのモデル事業段階を経て、出現してきた課題へ対応し、柏市が定義する協働について広く深く浸透する段階に入ったと思われる。市民及び団体、行政職員の協働に対する認識が深まってゆくにつれ、制度を見直しながら運用していくことが、今後も必要であると考えます。

提案から実施までの一連の流れを基本に、「進化するプログラム」として、到達点を見据え、現状に即した制度設計を行っていただきたい。

前述の提案件数の少なさとも関連して、団体が事業アイデアを温めていても、情報量や対話の不足により芯や肉付け部分を形成しきれず、機会を見送ってしまっているのではないだろうか。また、企画にあたっては、公益的な視点や気づきを外側に求めて案を膨らませることが必要不可欠である。素材となる市政情報の積極的な公開と、対話環境の整備を望む。

団体の想いや迅速性・波及性・行動形態などの特性を引き出して活かせるよう、シンプルな制度設計に努めるとともに、かかる事務を効率化して、提案チャンスを増やすことも検討していただきたい。

応募から事業化までのスピードアップが望まれるが、協働の芽が育つ場である調整協議は充分に行われるよう配慮していただきたい。そのためにも、選考過程の簡素化と透明性の確保に努め、提案者の想いと選考委員会の評価について、お互いにしっかりと受け止められる手法を検討されたい。

(3) 柏市民公益活動補助金制度

昨今の市民活動団体が抱える主な課題として資金調達があげられる。特に、単独で立ち上がったばかりの団体の場合、組織体制が十分でなく情報量も不足しがちであることから、支援情報が行き届くよう、効果的でわかり易い制度の周知を望む。

また、財政支援によって、対等な立場で事業を遂行する力量を持つ団体が増えるということは、行政だけでなくあらゆる主体とパートナーシップを組める力を付けることにもつながる。また、次のステップとして団体同士が柔軟にパートナーシップを組んでネットワークを構築することも視野に入れながら、団体の事業力強化につながる活動支援のあり方を検討していただきたい。

行政による市民活動団体への補助金交付は、単なる資金援助に留まらない側面を持っている。団体にとっては、市の信用を得て活動している自負と公金の使途責任の自覚が芽生え、一方、出し手である行政の広報力・信用力は大きく、市民はもとより他団体や行政他部署にまで影響を及ぼす。

こうした副次効果により、市民公益活動が地域に認知・信用されて支援者が広がり、最終的な成果に結びつくことを再認識していただきたい。

そのためにも、選考時だけでなく、どうしたらその事業が地域にとって価値あるものとなるのか、団体と一緒に考えていく姿勢を持つことが大切である。選考委員会においても、評価や助言を行うことによって、その一翼を担っていきたいと考える。

5 まとめ

平成20年度の協働事業提案は、提案件数は横ばいながら、協働の観点が反映された提案が少なかった。市民にとって「協働とは何か」わかりやすく、提案しやすい制度への見直しが迫られていると感じている。前項に挙げた課題や意見等について検討していただき、市民公益活動団体との協働によって市民生活の豊かさが増幅される仕組みづくりを進めていただきたい。

当制度のプロセスによって、協働の芽が育っていくことを喜ばしく思う一方で、行政側に協働の進め方に対する迷いも見受けられるようである。市が思い描く協働の姿とはどのようなものか、なぜ協働が必要なのかを再確認するため、パートナーシップ型の行政職員の育成と、庁内の意識付けの必要性を感じる。

また、提案者においても、成功事例を積み重ね、各部署や他の市民公益活動団体との接点を増やして事業力強化に努め、自発的な市民力の向上を目指していただきたい。さらに、協働事業の実施団体は協働モデルとして、体験から得たノウハウを広く市民と共有し、後続の団体もしくは自身のエンパワーメントの一助となって欲しい。

現行制度は、市民側の発意による提案を想定して基本設計をしているが、これまでも、個々の現場においては市民公益活動団体と市が契約等を交わした協働事業が行われてきた。当制度をはじめとして総合的・体系的な取り組みを進めることで、多くの市民公益活動団体との一層のパートナーシップへの道が広がることを期待する。

最後に、選考委員会の各委員、協働コーディネーターが、制度に則って誠実なる選考・検討を行ってきたことを報告するとともに、今後の協働事業提案制度のさらなる進化と協働事業の拡充、ひいては柏市における市民との協働の実現を期待して、まとめとしたい。

平成20年度 協働事業提案内容と選考結果

No.	提案団体名	事業名	事業内容	事業予算 (市負担分)	市の事業関係課	選考結果 (100点満点/200点以上通過)
1	若美会	小中学生への日本伝統芸能の伝承	踊を通して日本の伝統芸能を体験し、礼儀作法や人に対しての思いやり及び美しい姿勢等を教え伝える。	520,000	企画調整課 児童育成課 文化課 指導課	不通過 (178点)
				500,000		
<p>委員会意見(概要)</p> <p>日本舞踊を通じて、小中学生に礼儀作法や思いやりの心を伝えるという提案の目的は、今の柏市において大切なことだと思われます。また、核家族化が進む中、このような日本の伝統文化に子どもたちが身近に触れ合える場づくりは、とても必要だと思います。しかしながら、事業手法について、事業の成果が広く社会に還元されるような、より公益性を高めるものであればよかったですのではないかと思います。</p> <p>まずは、貴会の自主事業として、小中学生への働きかけを積極的に行い、活動基盤を強化し、事業に対する地域ニーズを高めていってほしいと思います。</p> <p>なお、貴会の事業をはじめ、子どもの健全育成に向けた多様なメニューが用意され、市民に提示されることは必要です。市民公益活動団体の皆さんや市の担当部署、市民活動推進課には、そのための仕掛けづくりにも取り組んでほしいと思います。</p>						
2	特定非営利活動法人 NPO共生	柏市介護家族応援センターの開設	介護者を抱える家族等を対象に、行政機関や民間事業者と連携して適当なサービスのコーディネートやサポートを行う。	1,531,000	介護保険管理室 地域包括支援センター 高齢者支援課	不通過 (250点)
				696,000		
<p>委員会意見(概要)</p> <p>要介護者を抱える家族の不安を取り除くための相談事業は、ニーズもあり、必要な事業だと考えます。</p> <p>しかしながら、地域包括支援センター並びに在宅支援センターで実施している365日24時間体制の相談窓口があるなかで、既存の相談業務に不足しているものが何なのか、貴会の実施する相談業務において、その不足部分が解消されるのか、提案内容からは見えにくかったように思います。</p> <p>特に、相談日が週1回ということについては、相談者のニーズや状況に合わせたものとはいいがたく、残念なところです。また、課題としてあげていた介護保険適用までの期間短縮と相談事業との関係性も十分理解できません。</p> <p>介護家族に寄り添い、有益なアドバイスを行うために、より効果的な相談の実施方法や体制について、十分練り上げてほしかったと思います。また、その相談内容に対して、行政窓口につなぐだけでなく、より積極的に問題解決に向けて行動するなどの方向性が見えるとうよかったのではないのでしょうか。</p>						
3	特定非営利活動法人 百尺竿頭	医療費削減と健康維持管理のための 太極拳ボランティア養成講座	自発的な健康管理を誘発するため、健康体操として太極拳を指導する地域リーダーを養成し、効果測定等を行う。	800,000	保険年金課 地域健康福祉課 高齢者支援課	不通過 (223点)
				500,000		
<p>委員会意見(概要)</p> <p>健康づくりや介護予防という提案の目的は、今の柏市において必要なことだと思われます。</p> <p>しかしながら、事業手法について、事業の成果が広く社会に還元されるような、より公益性を高めた事業であればよかったですのではないかと思います。</p> <p>まずは、貴会の自主事業として、各地域への働きかけを積極的に行い、活動基盤を強化し、事業に対する地域ニーズを高めていってほしいと思います。</p> <p>なお、貴会の事業をはじめ、健康づくりや介護予防に向けた多様なメニューが用意され、市民に提示されることは必要です。市民公益活動団体の皆さんや市の担当部署、市民活動推進課には、そのための仕掛けづくりにも取り組んでほしいと思います。</p>						

No.	提案団体名	事業名	事業内容	事業予算 (市負担分)	市の事業関係課	選考結果 (400点満点を以て 上通過)
4	アロハート	カウンセラー養成講座	児童虐待や介護苦による殺人自殺、心身疾患などの悩みを抱え込む前に、身近な地域で話を聴き心を支えるカウンセラーを養成する。	275,000	保健福祉総務課 高齢者支援課	不通過 (271点)
				225,000		
<p>委員会意見 (概要)</p> <p>自殺者が全国で年間3万人を超えるという状況がなかなか改善されない今の社会において、このようなカウンセリングの取組みは必要なことだと考えます。また、身近にこのような相談の出来る場と人がいれば、さまざまな事件を防ぐことも可能ではないかと思えます。</p> <p>しかしながら、現状では、カウンセリングの技法を身につけた人の、その後の活動の場が整備されていないため、受講者の満足で終わってしまう恐れがあります。柏市内でも傾聴ボランティア活動などが行われていることから、これらの団体との連携やカウンセリングできる相談窓口の開設、カウンセラーの派遣など、事業の成果が広く社会に還元される仕組みを併せて提案いただくとよかったですのではないかと思います。</p> <p>なお、カウンセリングの技法もさまざまなものがあり、現状では、行政として、技法を特定した形でのカウンセラーの養成は、難しいのではないかと思います。まずは、各地域において、カウンセリングの事業を展開していただき、活動基盤を強化し、事業に対する地域ニーズを高めていってほしいと思います。</p>						
5	アロハート	(仮称) お休み処	商店街の空き店舗等を利用して、軽飲食の提供や買物や荷物運搬サービス、ミニギャラリーやおしゃべりサロンを運営し、地域のコミュニケーションや商店街の活性化を図る。	2,170,000	商工課 保健福祉総務課 高齢者支援課 障害福祉課 (社会福祉協議会)	不通過 (220点)
				1,200,000		
<p>委員会意見 (概要)</p> <p>高齢者や障害者の孤立化への対策や地域住民のコミュニティづくりの必要性は、広く認識されているところであり、貴会提案の事業についても、ニーズはあるものと思われまます。柏市でも、空き店舗を利用した居場所づくりが、松葉町や柏ビレジで始められています。</p> <p>貴会の提案につきましては、次の点について今一步踏み込んだ検討をしていただきたかったと思います。</p> <p>1つは、場所の検討について。市のモデルケースとしての展開を考えたとき、また居場所づくりへの地域ニーズを鑑みるとき、提案の当該地が最適なのでしょうか。</p> <p>2つめは、地域との連携について。地域に根付いた事業を展開するために、商店会・町会など地域に働きかけ、協力者を得た上での提案であればよかったですと思います。</p> <p>3つめは、収支計画について。1つの店舗を経営するのであれば、もっと詳細な収支計画が必要だと思われまます。</p> <p>4つめは、提案事業の先駆性や特殊性について。既存事業(松葉町、柏ビレジ)との違いが十分に読み取れず、モデルケースとして捉えることは困難でした。</p> <p>このような居場所づくりは必要だと思われまますが、協働事業として、家賃相当分を市が負担し続けるのは望ましいといいたいため、地域と連携した、より現実的、具体的な事業提案を期待したいと思われまます。</p>						
6	スポーツ吹矢 柏吹矢	健康スポーツ「スポーツ吹矢」体験講座	市民参加と健康づくりの促進のため、老若男女問わず取り組める、腹式呼吸を活かしたスポーツ吹矢の体験講座を行う。	356,000	広報広聴課 生涯学習課 スポーツ課	不通過 (204点)
				306,000		
<p>委員会意見 (概要)</p> <p>健康づくりという提案の目的は、今の柏市において必要なことだと思われまます。しかしながら、事業手法について、事業の成果が広く社会に還元されるような、より公益性を高めた事業であればよかったですのではないかと思います。</p> <p>まずは、貴会の自主事業として、各地域への働きかけを積極的に行い、活動基盤を強化し、事業に対する地域ニーズを高めていってほしいと思われまます。</p> <p>なお、貴会の事業をはじめ、健康づくりや介護予防に向けた多様なメニューが用意され、市民に提示されることは必要です。市民公益活動団体の皆さんや市の担当部署、市民活動推進課には、そのための仕掛けづくりにも取り組んでほしいと思われまます。</p>						

総事業費	5,652,000
うち市の総負担額	3,427,000

平成20年度協働事業提案（一次選考不通過案）の意見交換会

1 概要

平成20年度協働事業提案選考結果を提案者に通知したところ、2つの団体から今回の提案について関係部署との意見交換をしたい旨の申し入れがあった。

そこで、相互の事業について理解促進を図り、今後の活動展開の参考にしていただくため、関係者調整の上、協働コーディネーターを交えた意見交換会を開催した。

2 日時等

提案事業名	カウンセラー養成講座	スポーツ吹矢体験講座
日 時	平成20年7月29日（火） 午後1時半から3時まで	平成20年9月4日（火） 午前10時半から正午
会 場	柏市役所 306会議室	柏市役所 沼南庁舎 503会議室
提案団体	特定非営利活動法人 アロハート	スポーツ吹矢 柏吹会
事業関係課	保健福祉総務課 高齢者支援課 (社福)柏市社会福祉協議会	スポーツ課
協働コーディネーター	松清 智洋	
事務局	市民活動推進課	

3 主な意見

<カウンセラー養成講座>

- ・ニーズはあると評価されたが、自主講座の申込状況からして、もっと高く切実だと考えている。また、民生委員や介護や保育現場からの申し込みも多い。役職スキルとしてもカウンセリング技法は必要とされているようだ。
- ・市でもカウンセリングの必要性やカウンセラーの活用ニーズはあるとし、千葉大学と連携して「認知行動療法学習会」を実施して、心身のバランスの取れた総合的な健康づくりを推進している。
- ・地域での孤立高齢者等を把握しており、個別訪問対応が必要な状況だが、専門スキルを持つボランティアとのタイアップができればと考えている。
- ・団体の活動エリアは主に市の南部地域で、講座事業をしている。
- ・受講生の今後の受け皿について、ニーズのあるところで活用できるよう、希望部署との話し合いから始めてみては。まずは、実績をつくり展開モデルを構築した方が良さだろう。

＜スポーツ吹矢体験講座＞

- ・今回の提案内容は、今後は自主事業として進めたいと考えている。スポーツ吹矢が生涯スポーツ・地域スポーツとして地域で認知され、市内で活動していくために、市の計画や当会との関わりがどのように出来るのか伺いたい。
- ・スポーツ振興計画では、市民がくらしの中にスポーツを取り入れるようにすることが第一の目的。また、スポーツによる健康づくり・地域づくり・生きがいづくりなどの波及効果があることも認識している。一方で、経費の面では受益者負担の考え方が進み、あるスポーツを特化した公費負担は難しい状況にある。
- ・特定種目の普及以外に複合的な目的がある場合には、様々なスポーツ団体や異分野活動と横断的につなげていく役割も期待できる。
- ・総合型地域スポーツクラブのように、学校や医師会との連携や、特定保健指導の運動メニューへの参加例などが参考になるのでは。
- ・体力が弱っている人やスポーツが嫌いな人を振り向かせるのは難しい。スポーツの垣根を低くして、遊びやレクリエーション、日常的な運動の習慣付けをポイントとしてアプローチしたい。
- ・高齢者には公園で手軽に出来るグラウンドゴルフが人気。スポーツ施設や場所は限られており新規整備も厳しい状況であるが、身近な情報をデータベース化して提供できるネットワークが必要だ。

以上